

イノリノハジマリ

― 備後一宮吉備津神社御池再生計画 ―

天地の

神にぞ祈る

朝風の

海のごとくに

波立たぬ世を

01. 計画対象地



02. 背景 計画対象地の現状と課題分析

本殿

備中吉備津神社より御分霊を賜り備後国品治群管内（現在の福山市新市町管内）の地に創建され、備後の国を代表する最も崇敬されたといわれる神社。地域住民には「一宮（いっきゅう）さん」として伝統行事やお祭り等を通じて長く愛されている。本殿が昭和40年（1965年）に、国の重要文化財に指定される等、備後開拓の神様として、地域住民のみならず日本各地からの参拝客にも親しまれ広く信仰されている。

神社

神社の御手洗池（みたらいけ）である参道のはじまりとして参拝前に身を清めるといった役割をもっていた。歴史的な場所であるが設立当初と比べ面積が1/3に減少した御池は、時代とともに埋め立てによる規模縮小と末社移が行われ、現在は身を清められる場所ではなくなっている。地域住民には散歩コースとして主に利用されているが、御池と神社の間に県道を挟むことにより、参拝客が御池まで足を運ぶことは少ない。参道のはじまりとして、機能していないという現状にある。

御池



コミュニティ広場 みやうち



御池の南東に位置する降水時の調整池となる遊水地、「コミュニティ広場みやうち」。現在は降水時に利用され、氾濫を防ぎ地域の生活を助けてきた。命を守るために大切な池とされている。しかし、降水時以外は広い芝のある敷地であり、普段は立ち入ることができず空き地のままである。命を守る大切な場であるが、雨量のない通常時、常にこの敷地を空き地とする必要があるだろう。

03. 計画方針

備後一宮吉備津神社御池とコミュニティ広場みやうちの範囲を計画敷地とし、次の役割を果たすことを主な目的とする。

- ①御池から始まる吉備津神社本来の参拝順路再生の端緒
- ②降水時以外のコミュニティ広場みやうちの活用計画

古図分析より、かつて鳥居のあった場と現在のコミュニティ広場みやうちの敷地を通じて御池から吉備津神社に向かうための祈りのはじまりとなる空間を再生する。コミュニティ広場みやうちにて建築全体で心身を清められる役割を持ちながら、参道のはじまりを象徴する新たな「現代版鳥居建築」を提案する。神社の歴史を活かし、忘れ去られた御池の縮小を留めるとともに、位置づけを再認知してもらう計画を行う。

04. 設計概要とダイアグラム

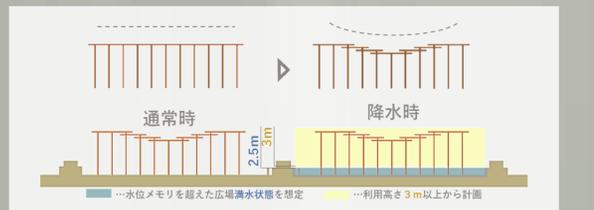


備後一宮吉備津神社大鳥居のスケールを、設計の基本構想として計画の1フレームに採用した。連続的に並べてすることで均質な柱空間を形成し、柱空間ひとつひとつを鳥居と見立て、参拝者は参道のはじまりとしてくぐり歩く。

設計の基本構想
1フレーム
5m×5m
柱 500mm角

大鳥居のスケールを参考に基準となる1フレームを算定
1フレームを連続的に並べ、W50m×D25m×H15mの均質な柱空間を形成

笠木の両端が上へ反り返った「明神型鳥居」の形状をヒントに形成した柱空間に高低差をつけながら天へ反り返るような屋根形状とした。



均質な柱の間一つ一つも神聖な鳥居であることを示しながら、全体を一塊と見た際にも迫力のある大きな鳥居としての役割も果たすことを視覚的に表現する。

05. 歌舞「浦安の舞」

「浦安の舞」という神をまつるために奏する「巫女神楽」歌舞（神楽）がある。備後一宮吉備津神社においても、行事の際に舞を奉納する伝統的な歌舞である。

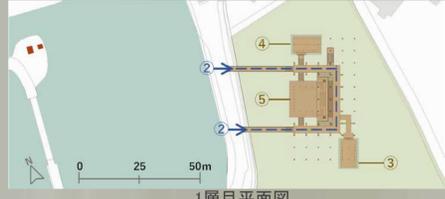
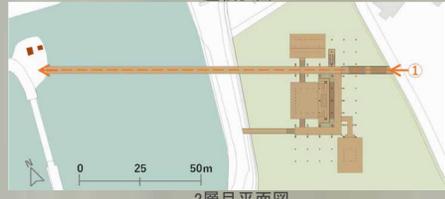
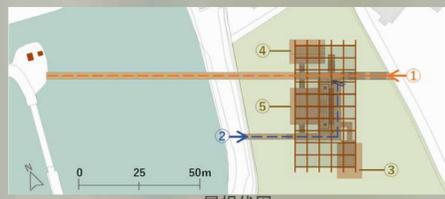
天地（あめつち）の
神にぞ祈る朝なごの
海のごとくに波立たぬ世を
浦安の舞 歌詞

「朝風の海のように、波風の立たない静かで、平穏な世の中であることを、天地の神々に、ひたすら祈るばかりである」と平穏な世の続くことを祈られてつくられた歌である。この歌舞になぞらえて、経路、室名を次の通りとする。

06. 空間構成



建物は半屋外空間を基本とし、少く参拝空間をメイン要素に、参拝経路を2ルート設ける。加えて、神社のイベントや地域行事などが行える地域交流の場に活用できる空間を3つ設ける。

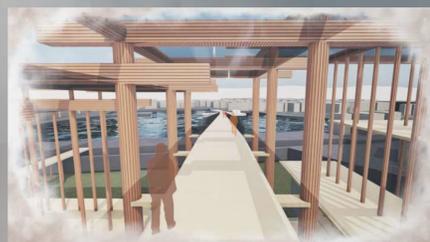




忘れ去られた御池という場の魅力を新たに再生し、かつ参拝順路のはじまりとしての位置づけと歴史を再認知できる空間となった。ふと目に留まり、思わず立ち寄りたくなるような場を通じ、世代をこえた交流から祈りに親しみを感ずる時間と空間を提案する。

天
ame

①参拝経路



歩く参拝空間としての神聖なメインルート。地面から約10mの高さとなる1本道の経路を渡り、御池浮島へとたどり着く。自然に開かれた開放感のある景色を一望できるとともに、鳥居をくぐり歩くように心も清まる空間とする。祈りのはじまり再生の場として位置付ける。

地
tsuchi

②参拝経路



神聖なメインルート下のサブルート。カジュアルに参拝空間を楽しめる。コミュニティ広場みやうち西側に面する道路を参拝経路「地」の入り口とする。2か所どちらからも立ち入り可能とする。階段を通じ参拝経路「天」へ登っていき、本殿へ向かうことができる。

朝風
asanagi

③交流空間



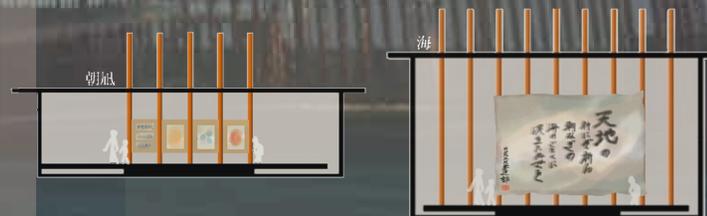
ガラスに囲まれ、宙に浮いたような箱型の空間を参拝経路「地」から高さレベルを変えずアクセス可能な南東へ配置した。神社としての一般祈願等の利用に留まらず、伝統行事や地域イベントに活用できるフリースペース空間として利用が可能。

海
umi

④交流空間



「朝風」と同様に神社行事やイベント時に活用できる空間である。2つの空間の違いとして、「朝風」に対し「海」は天井高さレベルが2段階になっているのが特徴である。「朝風」に対して、より高低差を活かした展示や空間利用が可能となる。利用目的に応じて、大画面プロジェクターの設置や、最大幅10m、高さ6mほどの巨大作品の展示までも可能な空間となる。



「朝風」「海」には、直径200mmの等間隔の柱を設けている。通常は開けた空間で利用可能であるが、必要に応じて空間を変化させることができる。柱自体に溝を設けることで、パネルはめ込みやハンギングによる作品展示、空間を仕切ったての利用を行うことができる。

舞
mai

⑤舞台空間



一遍上人絵伝
絹本着色

建物の中心にある舞台となる空間。

宙に浮いたような舞台をさらにコの字型に囲むように客席を設けた。参拝経路「地」から見下ろすような視線誘導とし、客席からは御池を背景に舞台を視観することができる。この計画に至った背景としては、一遍上人絵伝（清浄光寺）にて描かれた社前舞楽の様子をモチーフとして計画した。